

## 第 54 回けんこう教室開催レポート

2月17日(土)に第54回けんこう教室を開催しました。インフルエンザの流行が続く中、風が強く、冬らしい冷え込みが続く中、104名の方にご参加いただきました。

今回の講師は、坪井 優 消化器内科副部長。「内視鏡でできる検査・治療の最新事情～病気を早期に発見し、早期治療を」をテーマに、胃がん、大腸がん、最近増加している潰瘍性大腸がんの検査・治療について講演しました。



坪井 優 消化器内科副部長

胃がんの死亡率は男女ともに高く、胃がんになる人は緩やかに増加しています。胃がんの原因にはピロリ菌が大きく関係していますが、最近ではピロリ菌除菌のよい薬が開発され、1回で90%以上の方のピロリ菌を除去できるということでした。胃がんを治療したのちも、ピロリ菌を除菌したかどうかで再発率が大きくことなるというお話もありました。また、現在の内視鏡は、経口内視鏡、経鼻内視鏡はともに小さくなっていて、以前よりはずっと楽に受診できます。早期の胃がんは内視鏡による治療が可能で、現在の胃がんの内視鏡治療は、日本で開発された胃ESDが中心となっており、治療効果が高いだけでなく、術後再発率も顕著に低いことをご紹介しました。

一方の大腸がんは、女性ではがんの中で死亡率が最も高く、大腸がんになる方は急増しています。大腸がんの発生しやすい部位は、直腸とS字結腸で約70%を占め、次いで上行結腸が多くなっています。大腸内視鏡では、腺腫(良性腫瘍)、早期大腸がんの治療が行えます。

早期胃がんではESDが主な治療方法でしたが、大腸腺腫・早期大腸がんではEMRが主流で、大きさや形、がんの組織へ食い込んでいる深さなどに応じてESDを行います。

潰瘍性大腸炎は、最近急増している炎症性疾患で、大腸の粘膜にびらんや潰瘍ができる指定難病です。原因が不明で、患者数は20万人以上と推定されています。この疾患には飲み薬や注射薬で対応しますが、症状が重症化すると血球成分除去療法を行う必要があります。

これらの疾患はいずれも早期に発見し、症状が軽微な早期のうちに治療することが有効です。今まで内視鏡検査を行ったことがない方は、ご自身や周囲の方で気になることがありましたら、ぜひ一度、検査を受けることをお勧めします。また、当院では超音波検査も実施しています。

リハビリ体操では、リハビリテーション室の善田主任が、手軽にできる体操をご紹介しました。



立ち上がって、または着席しながら体操を行う参加者

○次回のけんこう教室は、**3月17日(土)14:00**から

健康診断で「呼吸器に異常あり」といわれたら

～「たばこを吸わない」＝「肺がんにならない」ではありません～

(山口 学 呼吸器外科医長、国際医療福祉大学 医学部講師) を予定しています。